



アマールと マットの はなし お話

むかし
昔、クリスチャンの せんきょうし
宣教師が
うんえい
運営していた インドの こじいん
孤児院に、
アマールという おとこ こ
男の子が
いました・・・。



ぼくたちの^{こじん}孤児院では、^{かんそ}簡素な^{うえ}マットの上にシーツをしいて、
その^{うえ}上でねていました。^{まいしゅう}毎週ぼくたちは、^{じかん}そうじの時間にシーツを
はずして^{あら}洗い、^{そと}マットは外の^{さお}さおにかけて、^ひ日に^ほ干していました。

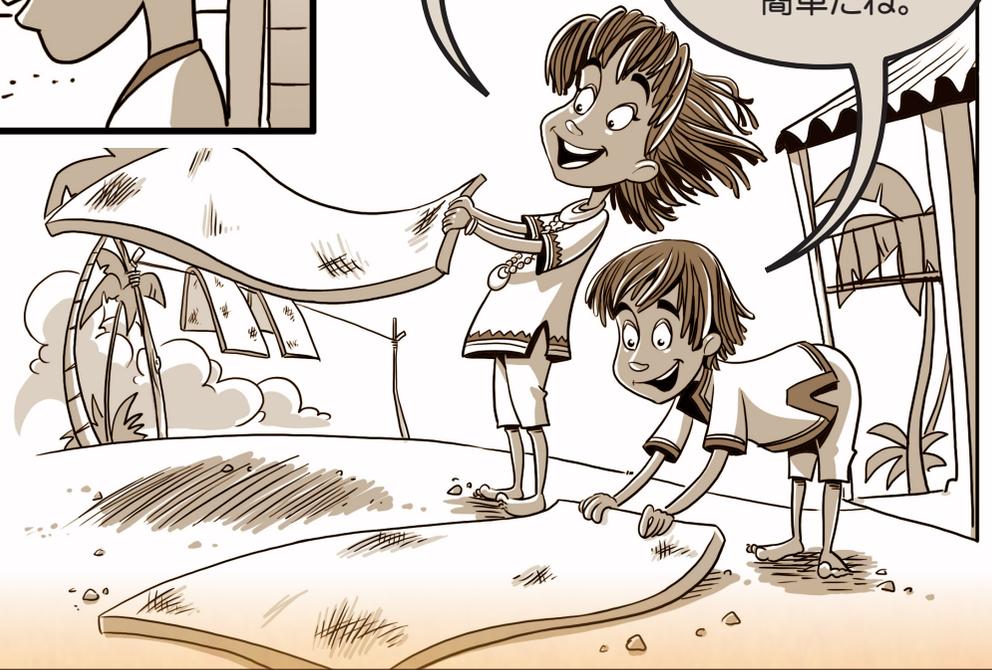
アマール、
^{きょう}今日は^{かようび}火曜日よ。
マットを^ほ干す
^ひ日だわ。



そのまま^{じめん}地面の
^{うえ}上に^お置いとけば
いいわ。

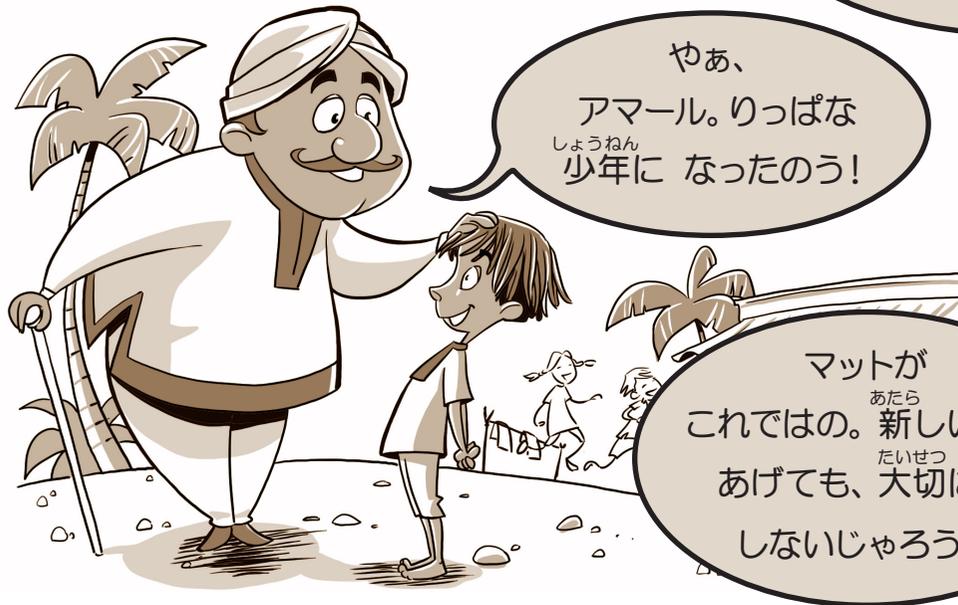
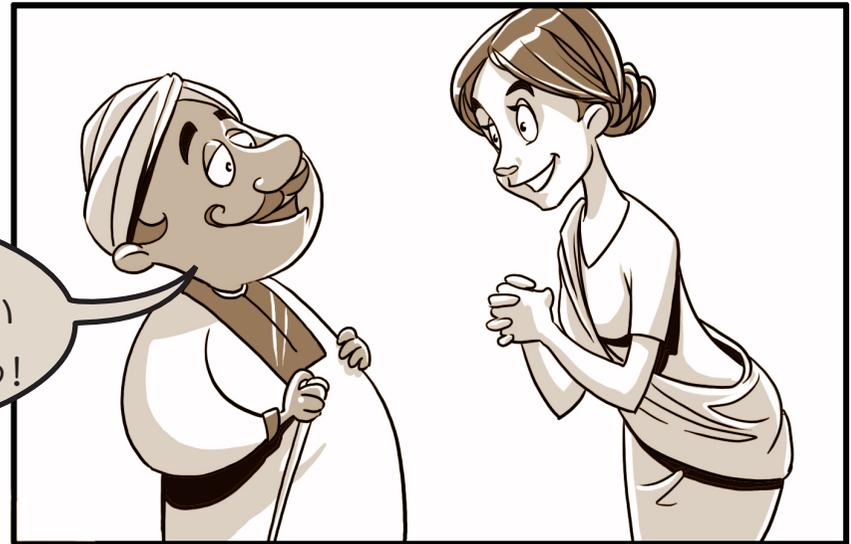
うん、そのほうが
^{かんたん}簡単だね。

ある^{とき}時、ぼくたちの^{なんにん}何人かが、マットを
^も持ち上げて^あさおに^ほ干すのをなまけて、
^{そと}外の^{きたない}きたない^{じめん}地面の^{うえ}上に、そのまま
^お置いていってしまいました。



ちょうど その日、孤児院の後援者の一人である ディワンさんが
やって来ました。そして、ぼくたちの世話をしてくれていた
クリスチャンの宣教師の一人、エイミー先生に、何か必要な
ものはあるかと たずねていました。そこで
エイミー先生は、ぼくたちのマットが
古くなったので、新調したいと 話しました。

喜んで、
子供たちのために、新しい
マットをお届けしましょう！



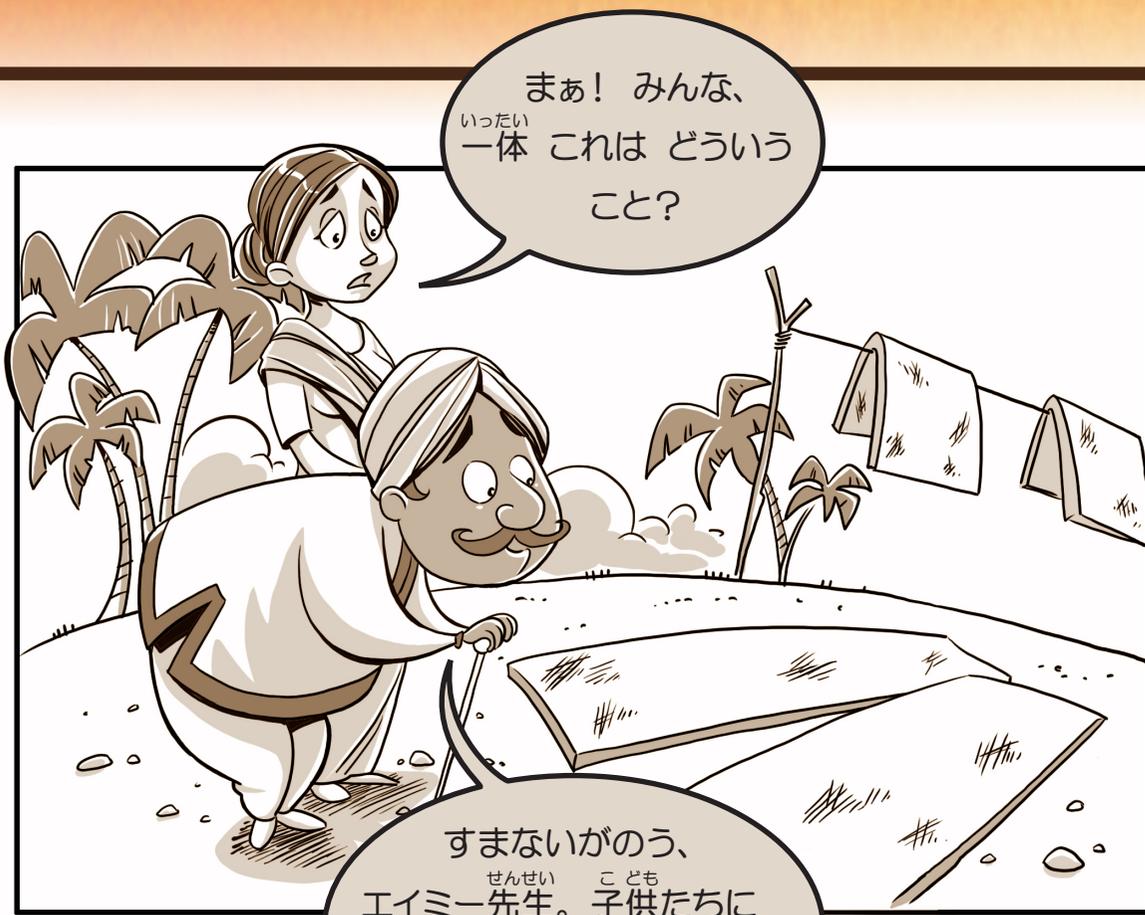
やあ、
アマル。りっぱな
少年になったのう！

マットが
これではの。新しいのを
あげても、大切には
しないじゃろう。

ディワンさんは 孤児院を訪ねに来ると、決めて
いつも、構内を歩き回って、みんなにあいさつしました。



けれど 悲しいことに、たまたま この日、何枚かの
マットが、無造作に 地面に 置かれていました。孤児院の
中を見回っていた ディワンさんが、それに気が付きました。

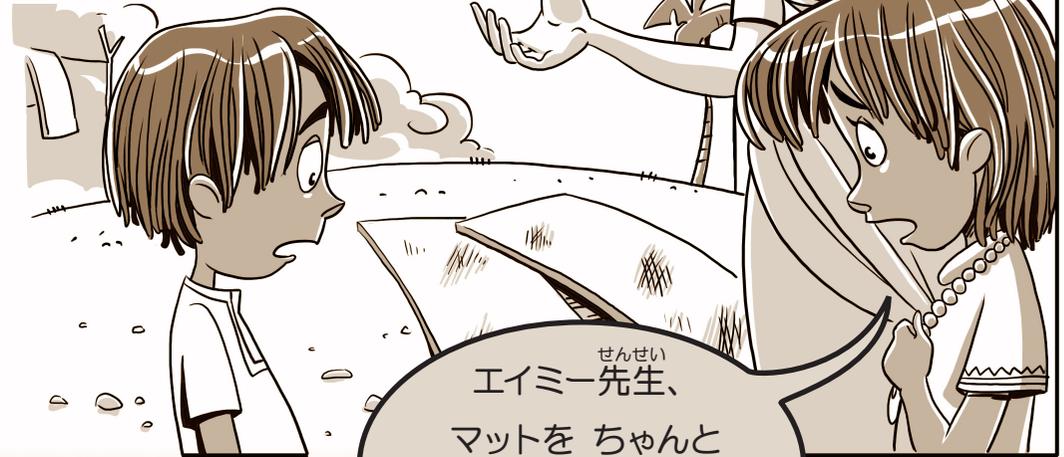


まあ! みんな、
いったい
一体 これは どういう
こと?

すまないがのう、
せんせい こども
エイミー先生。子供たちに
あたら
新しい マットは、まだ
はや
早すぎるようじゃ。

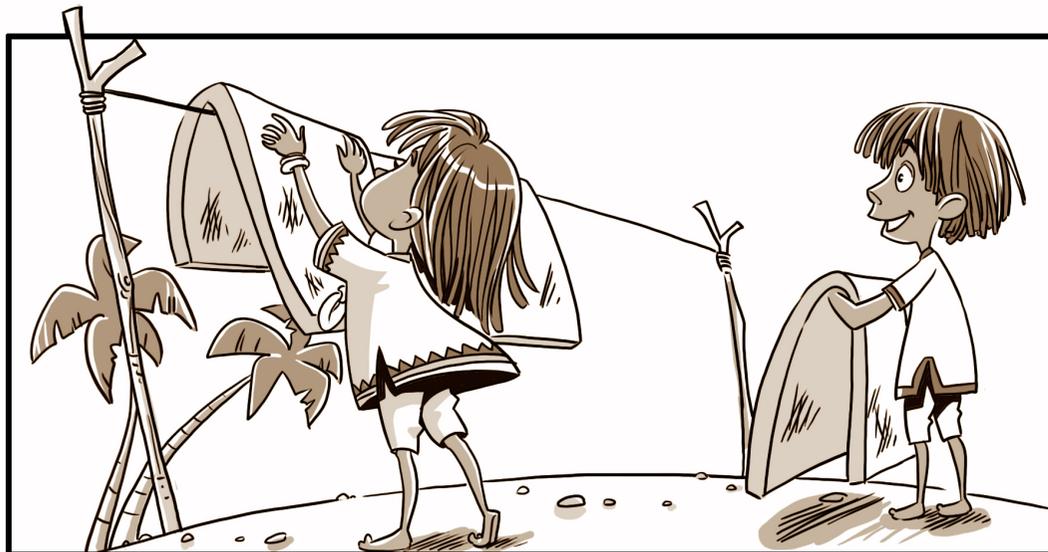
ぼくたちは みんな、とても ^{かな}悲しくなりました。
^{あたら}新しい マットが ほしかったからです。それで、
イエス様が ^{さま}下さった ^{もの}物を ^{かんり}きちんと 管理することの
^{たいせつ}大切さを ^{まな}学びました。

^{さま}イエス様が ^{くだ}下さった ^{もの}物を
^{しゅ}主に ^{かんしゃ}感謝する ^{ひと}一つの ^{ほうほう}方法は、
^も持ち物を ^もこまめに ^{てい}手入れして、
^{たいせつ}大切に ^{こと}することよ。



エイミー先生、
マットを ちゃんと
^{てい}手入れしてなくて、^{ほんとう}本当に
ごめんなさい。

それ以来、ぼくたちは、マットを いつも きちんと さおに かけて 干すよう になりました。そして、この お話には
 ハッピーエンドが あります。何ヶ月か たって、ディワンさんが また 訪ねて来られた時、ぼくたちの 一人一人に、ね心地の
 いい 新しい マットを 持ってきてくれたのです。彼は、本当に 親切でした。



アマール、かみさま 神様が
 くだ しゆくゑく たい よ
 下さった 祝福に 対して 良い
 かんりしゃ 管理者¹ になるという 教訓を
 まな はなし
 学んだ 話を してくれて、
 ありがとう。



¹「管理^{かんり}者^{しゃ}」とは、ある 特定^{とくてい}の 物^{もの}を 世話^{せわ}したり
 てい 手入れする 人^{ひと}のこと。例^{たと}えば、あなた^{あなた}は 自分^{じぶん}の
 も 持っている おもちゃ^{おもちゃ}の 管理^{かんり}者^{しゃ}という ことが
 できますね。

そのほかに、あなたは 何^{なん}の 管理^{かんり}者^{しゃ}か、思い^{おも}つけるかな?